

くらしのすまいりんぐ

地球と人に優しい家づくり・くらしづくりの情報広場

2015年12月1日発行
NO. 0018
発行責任者：(有)文化舎東毛
〒376-0101
みどり市大間々町大間々258-1
☎0277-73-4850

今月の話

1. 今月の話題 ～第11回 全国ソーラーツアー～
2. 建築知識 ～床下のない空間を～
3. 地鎮祭って？
4. 辛口コラム



今月の話題 第11回 アマテル全国ソーラーツアー



2016年1月10日(日)～3月27日(日)

もとはアメリカの市民レベルで開催されている National Solar Tour.

太陽熱等の自然エネルギーを活用した家や施設を特定期間に公開し、実際のユーザーが自然エネルギーの普及を図るというものです。

日本では私たちが地区事務局となり、毎年1月～4月上旬をソーラーツアー期間として開催し、今シーズンで11回目になりました。

ソーラーハウスにまだ

住んでいない人は見に行きましょう

- ・展示場のような人工的環境でなく、本当の家が見れます。
- ・営業のセールストークではなく成功・失敗談が聞けます。

ソーラーハウスにもう

住んでいる人は見てもらいましょう

- ・住心地を自慢しましょう。→見学者の参考になります。
- ・業者に言いくるめられないよう本当のことを教えましょう。
- ・ご自宅の公開をきっかけに、片付けましょう！



公開会場は事務局にお問合せいただくか

インターネットで「アマテル全国ソーラーツアー」で検索下さい

建築知識 ～床下のない空間を～

日本の住宅には床下をつくって、換気をしなければいけない、という習慣があります。建築基準法でも「床下空間を作るとき」には所定の換気を義務付けています。地面からの湿気を吐き出す目的ですが、よほどの湿地帯でもない限り、地面の湿気で床下が腐るという心配はありません。

そもそも、家が出来ると家の下の地面には長年にわたって雨がつかからないので、パサパサに乾いています。

しかも近年ほとんどの住宅は床下全面に厚いコンクリートを打設したベタ基礎なので、地面からの湿気が上がってくる心配はありません。

では、なぜ床下の結露・腐朽は起きるのでしょうか？



実は暖房に問題があったのです。

昔の家は熱損失の大きい「カゴ」のような家でした。隙間風が通り抜けるため部屋を暖めることができず、火鉢やコタツで手足を暖めていたため、部屋も床下も寒いので結露・腐朽は起きません。その後、高気密・高断熱の家の時代になり、熱損失の小さい「魔法瓶」のような家になりました。手足を暖めるのではなく、部屋を暖房するようになったため温度があがると湿度があが

木材に触れて結露し、濡れた木材が腐ります。

つまり部屋の温度と床下の温度差が原因となり、床下に外気が入ることで冷やされて木材に結露し、腐朽することが解りました。

これを防ぐために、床下に換気口を設け通気する必要があったのです。



冬、足元が冷えて不快を感じる人は多いものです。でも床下に外の冷気を流しているのでは？結露・腐朽の元になる、床下空間を作らず、地面に防湿した上に断熱して土間床にすれば、地温は井戸水と同じ15℃以上なので外の温度より暖かい床が出来上がります。とはいえ寒いことに変わりはありません。

この土間コンクリートに温水配管をすれば、床下自体を蓄熱体として利用できる「蓄熱床暖房」を簡単・安価に作る事が出来ます。足元のかすかな温もりがWHOガイドラインにあるような



地鎮祭って？

地鎮祭には二つの意味合いがあります。

一つ目は、家を建てるための土地を購入したとき、その土地に住む神様を祝い鎮め、土地を利用させてもらう許可を得ること。（神式と仏式がある。）

そして二つ目は、これからの工事の安全と家の繁栄を祈願すること。

よって地鎮祭は、土地を購入して、着工する前に行う儀式です。

～ 地鎮祭はどのようにして執り行うのか？ ～

一般的には、土地の四隅に青竹を立て、その間を注連縄で囲って祭場となし、斎主たる神職のもと、建築業者・設計者・施主らの参列の上で執り行います。祭場の中には木の台（八脚台という）を並べ、その中央に神籬（大榊に御幣・木綿を付けた物で、これに神を呼ぶ）を立てて祭壇（南向き又は東向き）となし、酒・水・米・塩・野菜・魚等の供え物を供える。また、関西などの特定の地方によっては伊勢神宮近隣の浜から砂又は塩を取り寄せ、四隅に置く場合もある。祭壇の左右に、緑・黄・赤・白・青の五色絹の幟に榊をつけた「真榊」を立てる場合もある。この五色絹は五行説における天地万物を組成している5つの要素、つまり木・火・土・金・水を表している。（この五色は神社、お寺には欠かせない大切な色で、魔よけの意味があるそうです。）

日本以外では韓国や台湾でも地鎮祭に似たお祓いをするところがある。

地鎮祭の流れ

神式の一般的な地鎮祭の流れは次の通りである。

手水（てみず、ちょうず）手水桶から掬った水で両手を洗い、心身を浄める。

修祓（しゅばつ）参列者・お供え物を祓い清める儀式。

降神（こうしん）祭壇に立てた神籬に、その土地の神・地域の氏神を迎える儀式。

献饌（けんせん）お供え物を神様に献じる儀式。

祝詞奏上（のりとそうじょう）その土地に建物を建てること

を神に告げ、以後の工事の安全を祈る旨の祝詞を奏上する。

四方祓（しほうはらい）土地の四隅をお祓いし、清める。

地鎮（じちん）斎鎌（いみかま）を使った刈初（かりそめ）、斎鋤

（いみすき）を使った穿初（うがちそめ）、斎鍬（いみくわ）を使った

鍬入（くわいれ）等が行われる。

玉串奉奠（たまぐしほうてん）神前に玉串を奉り拝礼する。

玉串とは、榊に神垂を付けたもの。

撤饌（てっせん）酒と水の蓋を閉じお供え物を下げる。

昇神（しょうしん）神籬に降りていた神をもとの御座所に送る儀式。

神酒拝戴（おみきはいたい）土器（かわらけ）の杯にお神酒を注ぎ、神職の合図で乾杯を行う。

直会（なおらい）当地でお神酒で乾杯し、お供え物の御下がりを食する。



辛口 コラム

～平和憲法の花～

1932年中国旧満州の平頂山村で日本軍による村民大虐殺事件がありました。近くの日本資本の炭鉱がゲリラに襲撃され日本人職員5人が殺害されたことに対し、日本軍守備隊は村民をゲリラと通じていたに違いないと一箇所に集めて虐殺し、国際社会に発覚を恐れ死体は焼却し穴に埋めました。戦後発掘された現場からは幼い子やそれをかばう母などおびたしい骨が重なり合って見られるといい、2006年には最高裁がこの事件を正式に認めています。韓国で従軍慰安婦を強制連行したとかしないとかいいますが、韓国は当時日本の植民地だったので酷い目に合わせたことは否定出来ないでしょうし、南京大虐殺も中国側30万人、日本側見解では2万とか4万人とかと争うのですが、おびたしい数の捕虜や一般人の殺戮、婦女子暴行があったことは正視しなくてはなりません。

今年ロシアは戦勝記念日に派手な式典を行ったのですが、ウクライナで内戦を煽り領土を奪ったプーチンに怒って西欧諸国はどこも出席しなかった中で、ただ一人ドイツのメルケル首相だけは出席し、さすがに軍事パレードには出なかったものの、ロシア軍戦没者の慰霊碑に参拝しました。ドイツは第二次大戦時代のもめ事を抱えてはいない、それどころか今やヨーロッパ連合の盟主です。メルケル首相の心の中いかなものかと思いつつも、なるほど、これが外交というものかと尊敬の念を抱かずにはいられませんでした。日本平和憲法の本物の精神はきつこうなのだろうな、と思うのです。

～アマテル家づくり学院～

地場工務店のある勉強会の後、みんなで懇親会を開きワイワイ雑談をしましたが、勉強会のテーマに関連してとても面白い議論になりました。建主さん達はタイルを模し木目を模した、いわばいかにも偽物のサイディングを好み、玄関の戸も誰もが同じような大手メーカーのピカピカものを好む、一方で相談にのる工務店も無難にお客様の好みに従う、と言うのです。出来上がった住宅はいかにも大手量産メーカーの建てる住宅のお値段相当のコピー。建築コストをしきりと気にしながら、そのくせユニットバス、トイレ、流し台などはより高価なものを希望し採用するのだそうです。トイレに入ったら便座の蓋が開いて音楽が鳴る、なんて本当に要るのですか？ 一口に言えば、家を建てようとする人々が、量産メーカーの住宅展示場や大手住宅機器メーカーの工業化製品や展示場に都合良いようにしっかり「刷り込み」をされ「洗脳」されていると思うのです。自分で考え自分の責任で物事を決める、ということが大切ですが、何を求めて家を建てるのか、家をじっくり考えることが大事だと思うのです。

私にとって最も大切なモノは「快適に暮らせる家」です。外観デザインにしても専門家と相談して飽きないものにする値打ちは十分あります。そう考えると、億劫がらずに信頼できる書を読み、信頼できる勉強会で学ぶべきです。どれが「信頼できる」ものかを見分ける力も求められますが。機会があれば私達の「アマテル家づくり学院」にも参加して下さい。

